

花いっぱい運動メモリアルガーデン基本計画策定業務委託報告書

2011年12月

宇部市公園整備局公園緑地課



受託機関：山口大学大学院 内田文雄研究室

花いっぱい運動メモリアルガーデン基本計画策定業務委託 報告書

花いっぱい運動メモリアルガーデン基本計画

目次

- 1、はじめに
- 2、調査の進め方
- 3、基本計画の内容
- 4、計画平面図
- 5、完成予想図（パース）

1、はじめに

昭和 30 年に始まった「花いっぱい運動」は、宇部市の復興まちづくりのシンボルであり、春と秋に行われる「花壇コンクール」は、今年（平成 23 年）で 100 回の節目を迎えた。

宇部市は、第二次世界大戦によって市街地の大半を消失したが、戦後の石炭景気に支えられて順調に復興を遂げた。工場から出る黒煙は復興のシンボルであったが、一方でばいじん汚染は「世界一灰の降るまち」と報道されるまでになり、市民の生活と健康を脅かし、市民の心も乱れ、治安も悪くなるという事態となった。

そのような中、ばいじん対策と並行して市民の間ではまちに潤いを取り戻すために「緑化運動」、「花いっぱい運動」、「彫刻設置」など、さまざまな市民運動が展開されてきた。中でも、多くの市民が関わり展開して来たのが「花いっぱい運動」であった。50 年を越えて続く市民の息の長い緑化への取り組みは、宇部市のまちづくりの原点であると同時に、宇部市民の市民力を示しているといえる。

宇部市は、この節目の年に「花いっぱい運動」が継続してきたことを顕彰し、今後、更なる緑化運動の展開を目指すためのシンボルとなる「花いっぱい運動メモリアルガーデン」を整備することとした。

本調査は、市民の力を結集し、宇部市の環境づくりの拠点となる「花いっぱい運動メモリアルガーデン」整備に関する基本計画を策定する事を目的としている。

2、調査の進め方

これまでに「花いっぱい運動」に関わってこられた方々や、花の愛好家の方々に集まっていただき、広く市民の知恵と力を結集して、協働型の計画づくりの手法により進めた。

1) 第 1 段階—フィールドワーク

敷地に予定されている場所やその周辺を調査し、地形の構造、既存樹木の構成、常盤公園の人の流れなどについて調査を行った。地形の構成から計画の骨格を導き出すことにつながった。



台地状の土地。隣家の畑につながっている。



台地側の斜面緑地



低地側の斜面緑地



2.7m 程度の段差がある斜面には多くの樹木が残り鬱蒼としている。



斜面緑地に残る大木の緑



桜の木が植えられている低地中央部



敷地南側の擁壁。

3m程度の高さがあり日陰となっている。



かつてここまで遊園地のエリアであった。

メリーゴーランドの基礎跡が残っている。

2) 第2段階—市民ワークショップ

調査期間が限られていたため、全体で3回のワークショップによる検討を行った。大まかな流れは以下の通りである。

□ 第1回ワークショップ

まず、敷地に予定されているレストハウス横の場所を皆で見学した。続いて、これまで花いっぱい運動に関わってこられた4名の方の体験談を聞き、花いっぱい運動の歴史や苦労話などを理解することが出来た。次に、ガーデニングの歴史などについて英国王立園芸協会会員のガーデンシティプロデューサーの中

山淑子さんの話を聞いた。最後に、メモリアルガーデンに期待することについて自由に意見を出し合い、グループ毎に話し合いの結果をまとめ全体に発表した。

□ 第2回ワークショップ

第1回WSで参加者より出された意見を以下の3つの項目に分けて整理した

- 1) メモリアルガーデンが目指す目標や理念について
- 2) ガーデンそのものの構成やつくり方について
- 3) ガーデンの運営、管理のあり方について

これらの項目ごとに各グループで話し合い、まとめたものを全体場で発表した。各グループに発表の後全体で方向づけに関する議論をした。

□ 第3回ワークショップ

第2回ワークショップの成果を作業班で整理して、3つの基本理念としてまとめたものを説明し、意見交換を行い基本方針としての合意を得た。

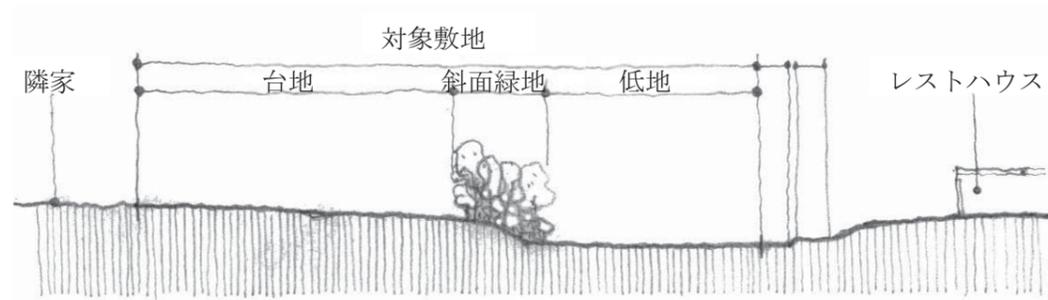
- 1) 市民みんなでつくりみんなで育てるガーデン
- 2) 一年中四季折々に楽しめる癒しのガーデン
- 3) 常盤公園にある特性を活かしたガーデン

続いて、3つの基本理念を受けて考えた計画案について説明した。

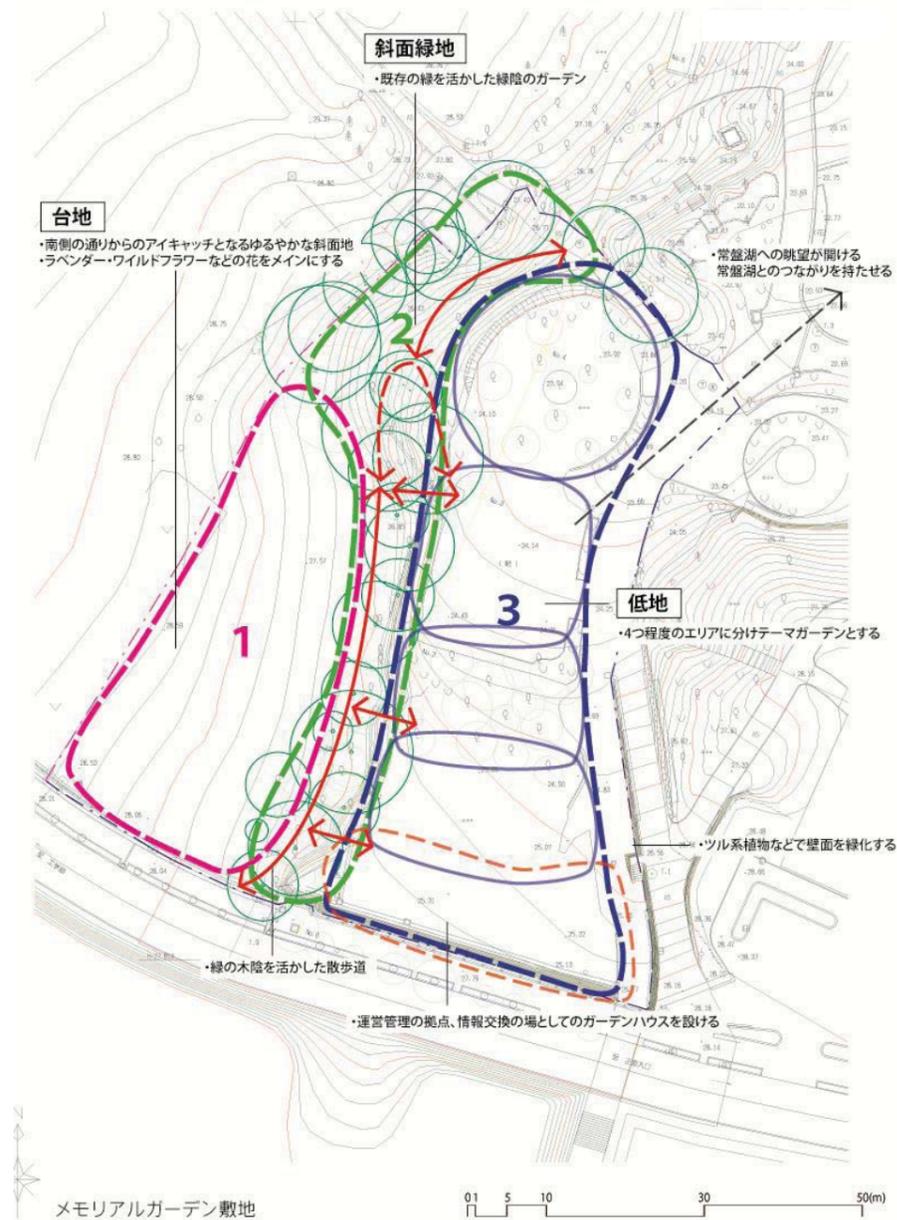
まず、敷地利用の基本方針として、現状の地形を活かして、

- 1) 台地
- 2) 斜面緑地
- 3) 低地

の3つのエリアに大きく分けて構成する考え方を説明した。



・敷地の断面構成



・敷地利用の基本方針。台地、斜面緑地、低地からなるエリア構成

次に、各エリアごとに構成する花などの要素についての考え方を説明した。

- 1) **台地→四季彩の丘**-----ラベンダー、ワイルドフラワー、ワイルドセージ
- 2) **斜面緑地→緑里(みどり)の散歩道**-----ロックガーデン、シクナゲの谷、里庭
- 3) **低地→ふれ愛の花園**-----ローズ&コンパニオンプランツガーデン、サクラ&フルーツガーデン、ハーブ&キッチンガーデン、水色ガイアガーデン、ガーデンハウス

これらの説明を基に各グループで議論して、その内容を全体に発表した。

3) 基本計画案のまとめ

第3回ワークショップに提案した計画案に対する参加者の意見を基に若干の修正を行い、基本構想案をまとめた。

全体計画の完成予想図は、10月19日の第100回花壇コンクールの表彰式で公表した。

3、基本計画の内容

多くの市民の参加によるワークショップを中心にまとめたメモリアルガーデンの基本計画の概要は以下の通りである。

1) メモリアルガーデンが目指す3つの基本理念

(1) 市民みんながつくりみんなで育てるガーデン

- a, 市民力が育てるガーデンづくり
- b, 子どもも大人も学べるガーデンづくり
- c, 継続的な運営・管理の仕組みづくり

(2) 一年中四季折々に楽しめる癒しのガーデン

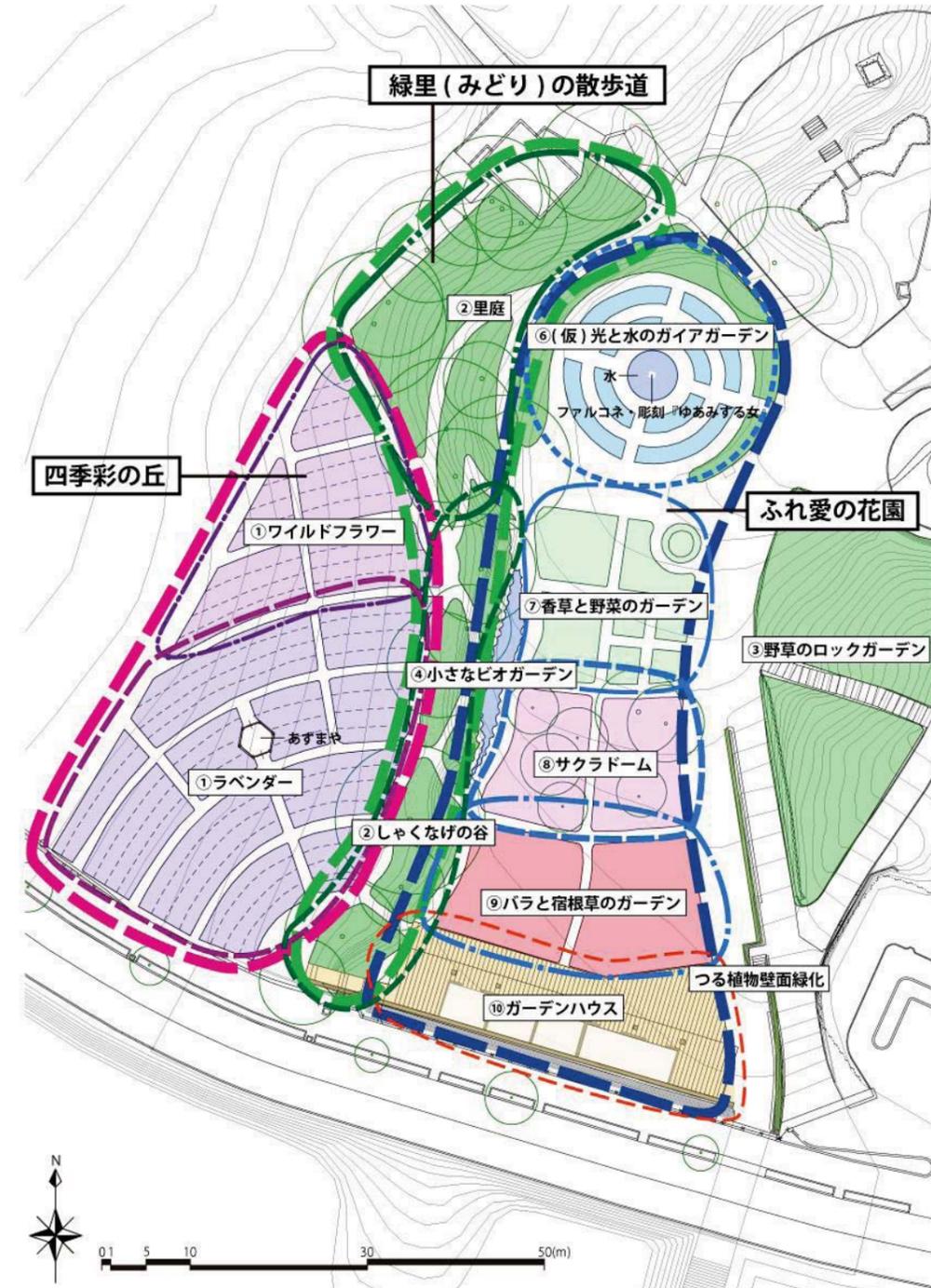
- a, 休憩場所、居場所がある
- b, 気軽に立ち寄ることの出来る仕掛けがある
- c, 食を関連づける
- d, 場所(ゾーン)ごとに花の種類を考え、見せ方を工夫する

(3) 常盤公園にある特徴を活かしたガーデン

- a, 水を活かしたガーデンづくり
- b, 敷地の高低差をうまく活かしたガーデンづくり
- c, 地形を活かした来園者が歩きやすく見やすいガーデンづくり

2) メモリアルガーデンの基本構成

(1) 基本計画の構成図



(2) 各エリアの構成について

①台地→四季彩の丘

緩やかに傾斜のついた台地状になっているエリアは、ラベンダーや、ワイルドフラワー、ワイルドセージなどを中心に草原風の伸びやかさを演出する。また、エリアの中心部に個性的な木造の四阿を建て、シンボリックなアイキャッチとし、同時に休憩のための空間、手入れ用の肥料や道具置き場とする。

・ラベンダー



ラベンダーの咲くころイメージ



ラベンダーの畝のイメージ

・ワイルドフラワー



ワイルドフラワーの咲くころのイメージ



彩鮮やかなワイルドフラワーの花

②斜面緑地→緑里(みどり)の散歩道

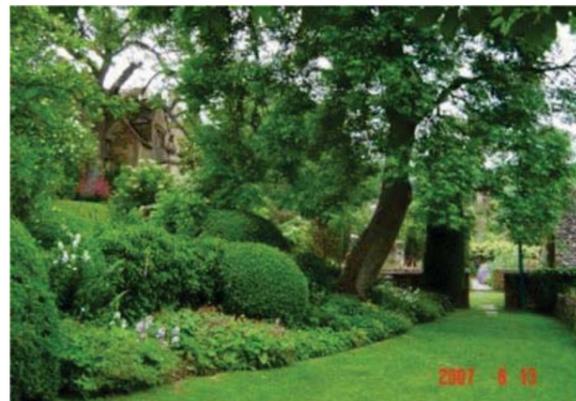
台地と低地の間には約2mの段差があり、幅5~10mの緑地帯となっている。この緑地帯を構成する樹木を吟味し間引きをして見通しを良くすると同時に明るくして緑陰の散歩道として整備する。またシャクナゲなどの斜面に適した樹木を補植し、谷あいの景観を演出する。

また、斜面を下りきった位置にはビオトープ池を配置する。

・緑里の散歩道



里山の雰囲気を残した緑あふれる散歩道のイメージ



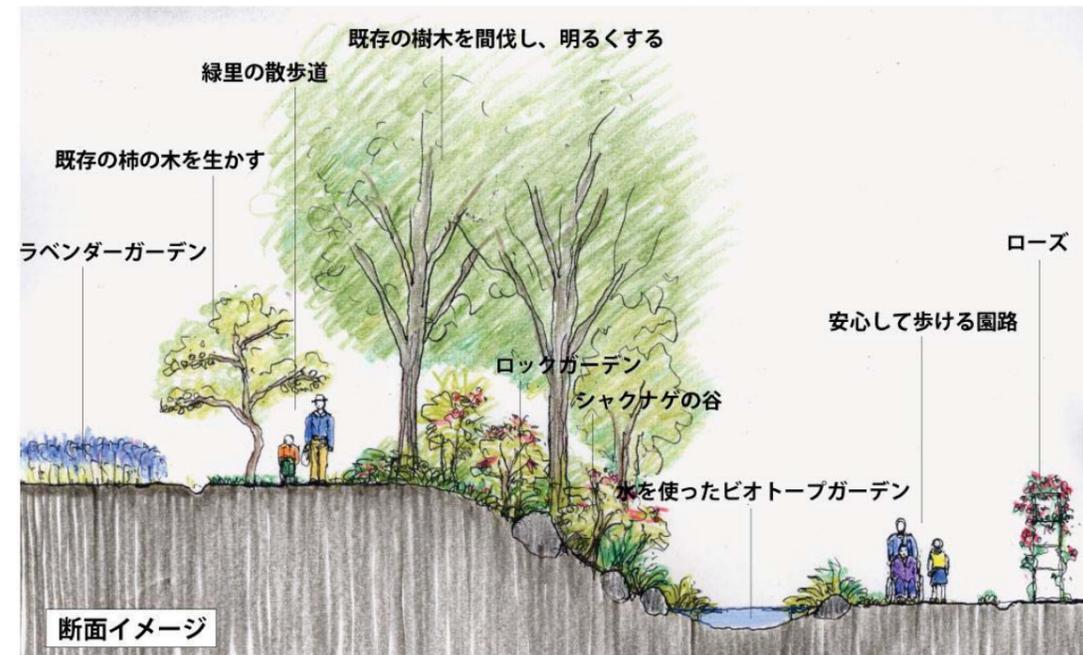
斜面地の整備イメージ



大きな樹木の下につながる園路のイメージ



しゃくなげの谷のイメージ



斜面緑地の整備イメージ

・野草のロックガーデン



ロックガーデンの整備イメージ
林床のギボウシなどの花たち



パブリックフットパス
誰もが健康増進やリフレッシュのために
自由に散歩できる散歩道のサイン



子どもたちのための森の隠れ家

・小さなバイオガーデン



水棲植物を配したビオトープ

③低地→ふれ愛の花園

低い段の谷状になっているエリアは、常盤湖の周遊園路から近く、メモリアルガーデンの中心となる場所である。かつて遊園地の一部であったメリーゴーランドの基礎跡や、サクラを植えた場所があり、それらの痕跡を活かしながら、花いっぱい運動を担って来た方々（殿堂入り達人など）を中心として、広く市民が力を振るう場所として整備する。

大きくは、(仮)光と水のガイアガーデン、香草と野菜のガーデン、サクラドーム、バラと宿根草のガーデンの4つのエリアからなる。また、一番南側(奥側)の擁壁沿いには、ガーデンハウスを設け、市民が中心に運営するカフェや運営組織の会議や、園芸相談を受けるための部屋などガーデニングに興味のある市民の居場所、交流の場とする。また、道具や肥料の倉庫など管理の中心となる施設を設置する。

・(仮)光と水のガイアガーデン

かつてのメリーゴーランドの基礎跡の形状を踏襲し、円の中心に宇部市の緑化運動の始まりのシンボルとなった、ファルコネの「ゆあみする女」の彫刻を据え、周辺を円形の池で囲み、50年の歴史をシンボライズする。池の周辺には同心円上に花壇が広がり、花壇コンクールの受賞者を中心に「水」をテーマとした花を中心に花壇を構成する場所とする。



ファルコネの「ゆあみする女」



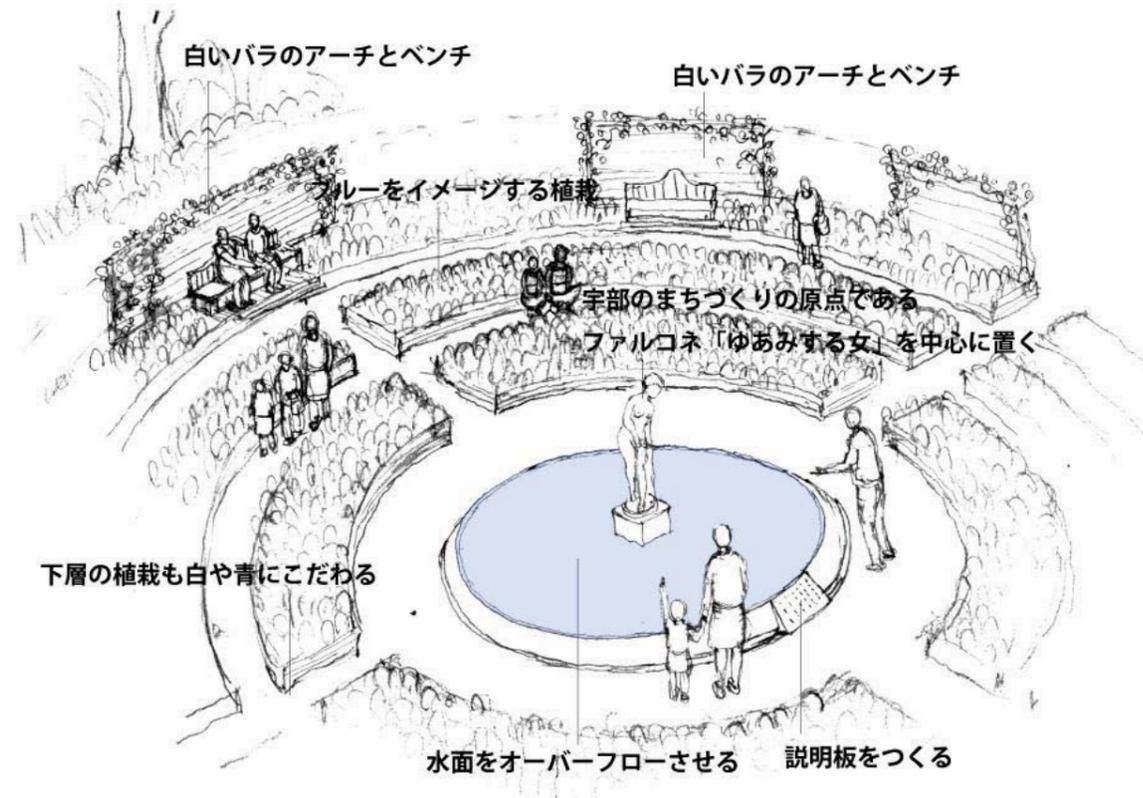
奥には、白いバラのアーチと白いベンチ



ガーデンへの入口を飾るバラのトピアリー



下層植物も白や青にこだわる



水色ガイアガーデンイメージ

ファルコネの「ゆあみする女」を中心に同心円状に広がるガーデンのイメージ
中央に近い花壇は、殿堂入りした花壇づくり達人の方々に力を振ってもらおう。

・香草と野菜のガーデン

花壇を車いすでも手入れが出来るような区画に区切り、高さを高くし（レイズドベッド）ユニバーサルデザインのガーデンとする。花壇にはハーブ類や野菜を中心に植え付け、ハーブティーや、サラダなどガーデンハウスなどで食べたり飲んだりして楽しむことが出来るような運営を実現する。車いす対応のガーデンテーブルなども用意する。



ユニバーサルデザインに配慮したレイズドベッド



車イスで回遊でき、作業できる園路



車イス対応のガーデンテーブル
テーブルの上にはサラダガーデン



管理しやすいガーデンボックス

・サクラドーム

既存のサクラの木のうち2～3本を移植すると直径10m程度のサクラのドームが出来るとなる。そのドームの下を芝生にして市民が憩える場所とする。また、周辺にはサクラにゆかりのある植物を配する。



サクラの木の下には、桜の名のつく植物
チェリーセージ、桜草、秋桜、芝桜などを配する。



・バラと宿根草のガーデン

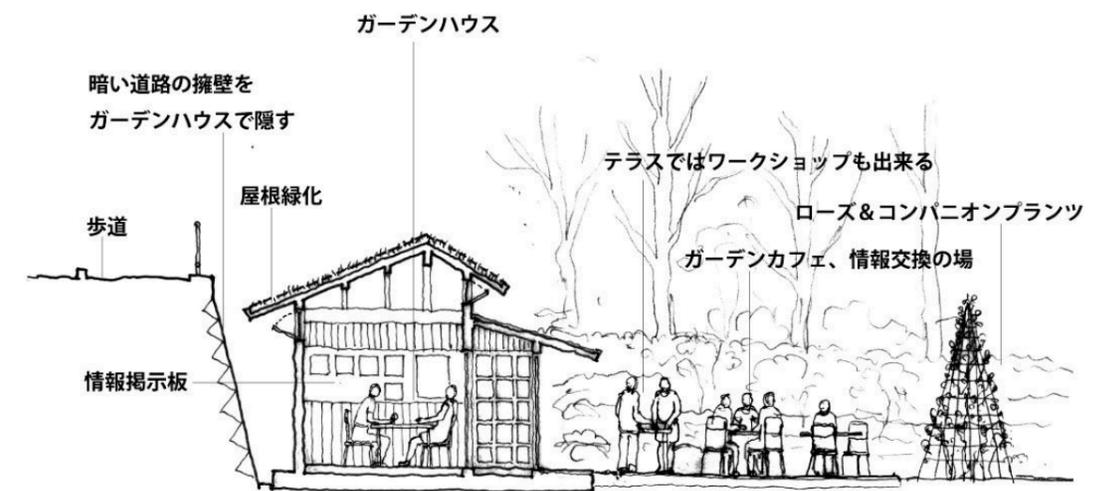
バラと宿根草を中心としたイングリッシュガーデンを整備するエリア。煉瓦や、トピアリーで囲みをつくり適切な位置にベンチなども置き、近接するガーデンハウスと一体として利用出来るガーデン愛好家の交流の場としても活用する。



・ガーデンハウス

敷地の南側の道路側には約3mの擁壁があり、日陰の部分が多く若干暗い感じがする。その部分にガーデンハウスを設置する。ガーデンカフェや、資料室、打ち合せコーナー、倉庫、テラスなどからなり、宇部市のガーデニングに関する情報の拠点として育っていくことを目指す。

施設は、木造を主体として、屋根はセダムなどで緑化し環境配慮型の建築とする。



ガーデンハウスイメージ



ガーデンハウスのイメージ例



屋根は多肉植物によるセダム緑化。
グランドレベルからは、カーペット状
の庭が望める



ハウスのカフェでは、こんなおしゃれな
ガーデンランチも提供できます。



ガーデンにはベンチやコンテナを配置

3) 管理・運営について

・「市民みんながつくり、みんなで育てるガーデン」

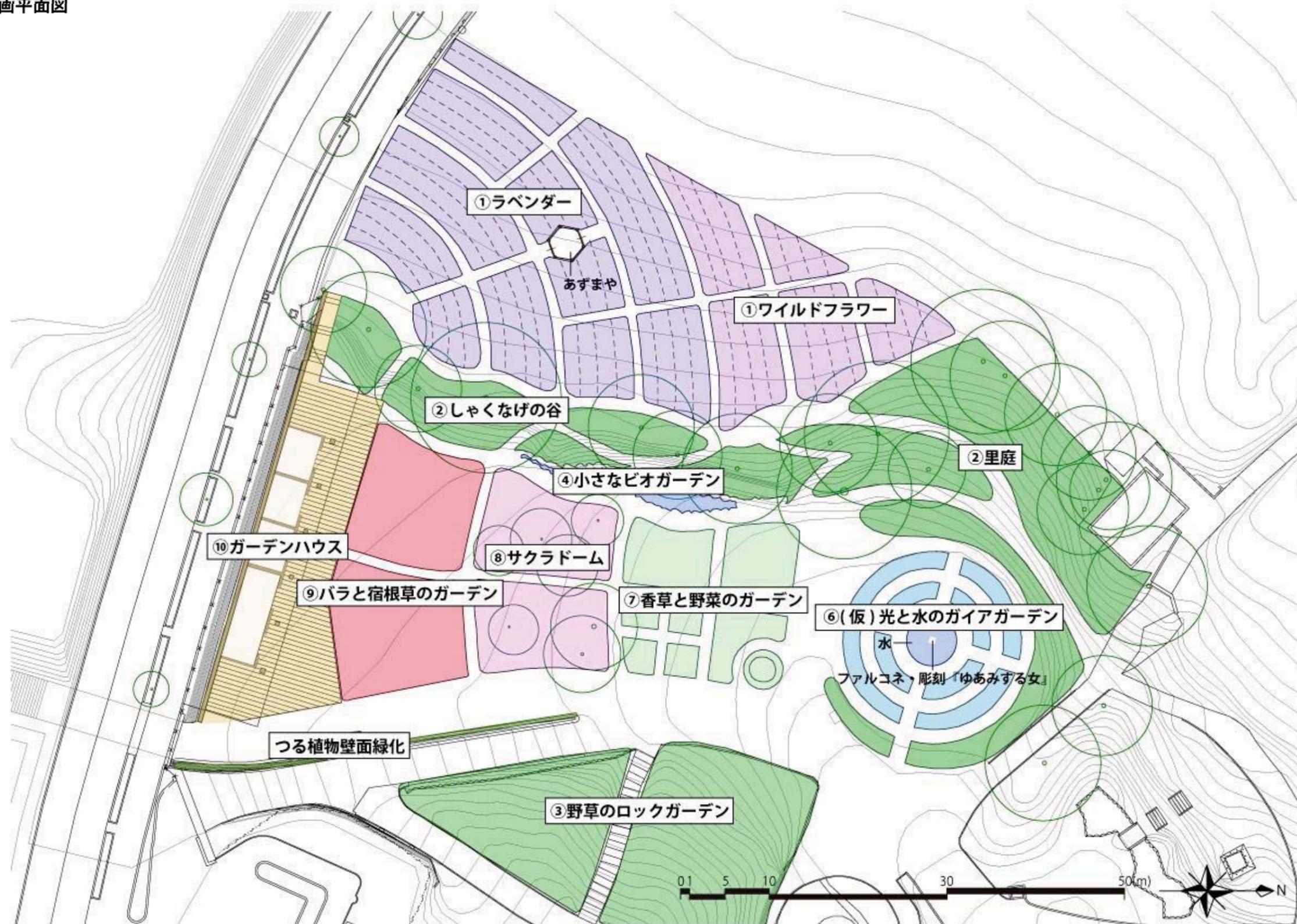
本計画の中で、特に重要なのは、「市民みんながつくり、みんなで育てるガーデン」という基本理念である。50年に及ぶ花壇づくりの歴史の中で、殿堂入りした達人をはじめとして多くの愛好家がいる。それらの市民の力を結集し、市民が主体的に関わりガーデンづくりを進め、出来上がった後、市民が中心となった運営・管理が実現してはじめて本ガーデンづくりの意味があるといえる。

・継続的な運営管理の仕組みづくり、組織づくり

ガーデンにおいては花や木という生物が対象であるため、きめの細かい手入れは最も重要な作業である。運営に関しては、人材、知識、情報が必要であり、また、常に一定の運営費用が必要となる。これらについて、市の役割、市民の役割を明解にしておく必要がある。そのためには、ガーデンの継続的な運営・管理の仕組みや組織づくりを、設計や施工の期間に並行して進める必要がある。現状で常盤公園に関わっているボランティア団体や、市民の愛好家が中心となって、メモリアルガーデンの運営組織を開かれたフラットなかたちで作りあげていく事が望ましい。またその組織が中心となって、ガーデンハウスを拠点に、ガーデニングや緑化の講座など市民全体を対象とした活動も展開する事が期待される。

メモリアルガーデンづくりは、常盤公園の中のひとつの施設づくりではなく、宇部市全体の花づくり、森づくり、環境づくりの中心拠点となることが期待されている。

4、計画平面図



5、完成予想図（パース）

